

県連だより

OITA CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

No. 110

October 2023

大分県生活協同組合連合会

〒870-0278 大分市青崎1-9-35

TEL 097-527-4056 FAX 097-527-4084

おおいたの生協



CONTENTS

- 大分県生活協同組合連合会第70回通常総会が開催…………… 2
- 県生協連「第30回平和のつどい」「ナガサキ行動」…………… 3
- 県生協連第31回「生協と県議会議員との懇談会」…………… 5
- 県生協連2023年度平和のつどい・
ピースアクション in ナガサキ感想文…………… 6
- 令和6年度大分県予算並びに
行政執行に関する要望書を提出…………… 13

OITA CO-OP TOPICS

- 生活協同組合コープおおいた…………… 14
- 日田市民生活協同組合…………… 16
- グリーンコープ生活協同組合おおいた…………… 17
- 大分県学校生活協同組合…………… 18
- 大分大学生生活協同組合…………… 19
- 大分県職員消費生活協同組合…………… 20
- 大分県労働者総合生活協同組合…………… 21
- 大分県勤労者医療生活協同組合…………… 22
- 大分県医療生活協同組合…………… 23
- 大分県福祉生活協同組合…………… 24

大分県生活協同組合連合会第70回通常総会が開催

県生協連第70回通常総会は、新型コロナが感染症法上の「5類」に変更されたことを受け、通常で開催とし、2023年6月29日(木)に大分市中央町の「ソレイユ」会議室において、加盟12生協の代議員49名中本人出席26名、書面出席12名、委任出席1名、県生協連役員15名全員が出席しました。

総会は、和泉吉信理事が進行し資格審査報告の後総会の成立を宣言、議長にグリーンコープ生協の金崎亮一代議員を選出し、最初に以下の総会役職員を任命しました。

- ①議事運営委員 首藤俊一理事、岩本 淳代議員（県学校生協）
- ②議事録署名人 金崎亮一議長、下村卓也代議員（生協コープおおいた）、溝口慎一郎代議員（自治労大分信販生協）
- ③総会書記 刈鎌あおい（生協コープおおいた）、関谷綾女（県連事務局）

次に理事会を代表して県生協連青木博範会長理事より、各会員生協・組合員の県生協連活動への協力に対する謝意と、諸物価やガソリン等の高騰による厳しい経営状況の中で奮闘されている会員生協へ敬意を表すとともに、この危機を役員と組合員の団結で勝利していく決意が示されました。

来賓は今年も新型コロナウイルスの感染予防を考慮しご遠慮いただき、首藤俊一議事運営委員長より議案は一括で提案する旨の報告の後、議案審議に入りました。

第1号議案の2022年度活動報告と決算報告は河原伸明専務理事、第2号議案の2022年度監査報告は江藤隆康特定監事、第3号議案の2022年度剰余金処分案、第4号議案の2023年度活動方針案と予算案、第5号議案の役員報酬、第6号議案の役員選任補充、第7号議案の役員退任慰労金、第8号議案の議案効力発生までを河原伸明専務理事より提案され、全員異議なく承認可決されました。

その後、退任する高瀬宏一理事（大分県学校生協）と三重野修次理事（大分県高校生協）へ青木博範会長理事より感謝状と退任慰労金が贈呈され、高瀬宏一理事・三重野修次理事より退任挨拶、岩井清一理事（大分県学校生協）と瀬尾彰一理事（大分県高校生協）より新任挨拶があり、最後に塩月裕市理事の閉会挨拶で総会は終了しました。



2023年度 役員名簿

役職名	氏名	所属生協・役職名	備考
会長理事	青木博範	生協コープおおいた理事長	
専務理事	河原伸明	員外	
理事	後藤哲也	日田市民生協理事長	
理事	日隈健一	グリーンコープ生協おおいた専務理事	
理事	岩井清一	大分県学校生協専務理事	新任
理事	瀬尾彰一	大分県高校生協専務理事	新任
理事	磯崎修治	大分大学生協専務理事	
理事	政丸佐智夫	大分県職員消費生協在局理事	
理事	首藤俊一	自治労大分信販生協専務理事	
理事	和泉吉信	大分県労働者総合生協専務理事	
理事	塩月裕市	大分県勤労者医療生協専務理事	
理事	吉田禎	大分県医療生協専務理事	
理事	兒玉達典	大分県福祉生協常任理事	
監事	江藤隆康	生協コープおおいた専務理事	
監事	萩原潤	グリーンコープ生協おおいた常務理事	

被ばく・終戦78年 新たな気持ちで平和を守る 県生協連「第30回平和のつどい」「ナガサキ行動」

県生協連は、「親子で考える平和のつどい（戦跡巡り）」「ナガサキ行動」を、今年もコロナ感染対策を十分行いながら以下のとおり実施しました。

【福岡県大刀洗の戦争遺跡めぐりコース】

7月29日、大分・別府地区からバス1台19名が参加しました。この地はかつて陸軍大刀洗飛行場があり、太平洋戦争末期には特攻隊員たちが飛び立った場所です。昭和14年に開隊した航空技術兵学校で、最大6,000名の航空技術兵が在籍し、飛行機機体・機関発動機・板金・精密機械・鉄砲火器・通信機器・落下傘など航空機に関する全てを教わっていました。終戦直前に米軍機の二度にわたる爆撃により、小学生24人を含む600人を超える尊い命が奪われました。筑前町が平和への情報発信基地として建設した「平和祈念館」を見学し千羽鶴を奉納しました。車窓より戦争遺跡である第五航空教育隊正門、憲兵分遣隊舎の煉瓦塼、時計台跡（現在は慰霊碑）・監獄壕・飛行隊井戸、頓田の森・北飛行場跡、平和の碑を見学しました。

【大分県佐伯市・臼杵市の戦争遺跡めぐりコース】

7月29日、大分・別府地区から小型バス1台10名が参加しました。最初は、臼杵市の防空壕跡を訪ね、持主の斉藤行雄さんにガイドしていただき見学しました。



この防空壕は臼杵市平清水の福良天満宮の真下に阿蘇溶結凝灰岩の岩盤を採掘した巨大な防空壕です。壕内は10畳敷の部屋と炊事場、便所、貯蔵庫を備える平清水エリアと150人が収容できるホールと小部屋からなる福良エリアがあり、両エリアはS字状の斜路1本で繋がり、壕内随所に燭台立てやカンテラ掛けの金具等があり、隣保班同士で避難できるように作られていました。

次に、佐伯平和祈念館を訪れ、全員で千羽鶴を奉納した後、今年も概略のビデオ上映で説明を受けました。

佐伯市は1934年に海軍佐伯航空隊が開隊し、豊後水道一帯の防衛の任にあたり、太平洋戦争の発端となった真珠湾攻撃の前には佐伯湾に連合艦隊の機動部隊が結集して、模擬演習が行われたことから佐伯市は激しい空襲を受けて多くの市民が犠牲になりました。この歴史的な背景を鑑み、痛ましい史実を後世に正しく伝え、二度と戦争を繰り返さないと訴えるため、1997年4月、旧海軍兵舎の跡地を公園化した「ふれあい公園」の一角に、平和祈念館「やわらぎ」が開館されました。



最後に佐伯市鶴見町丹賀浦の山の上にある丹賀砲台跡を見学しました。この砲台は1926年10月に着工、1933年9月に完成し、山の中に縦と横のトンネルを掘り、砲台には砲身14.2m、45口径30cmのカノン砲2砲が作られ、弾の飛ぶ距離は約26.8km、対岸の愛媛県と豊後水道への敵の侵入を防ぐために作られました。1942年1月11日に実施された実弾訓練の際、試射の最後の砲弾1発が砲塔内部で暴発、16人が即死、28人が重軽傷を負ったため、砲台は使われることはなくなりました。今は戦争遺跡として砲身

のあったドームと砲塔井のらせん階段、弾薬庫跡があり、広場には亡くなられた兵士や鶴見町から戦場に行き戦死した方を祈念する平和の塔があります。



【ナガサキ行動】

8月7・8日、大分・別府地区からバス1台22名が参加しました。7日は先ず佐世保市の「無窮洞」を見学、ここは、国民学校の生徒達だけで昭和18年から20年の終戦まで掘り続けた防空壕跡で、中は教壇・教室、食糧庫や炊事場、便所等があります。「無窮」とは極まりがなく無限という意味だそうです。



次に、「針尾送信所（国指定重要文化財）」を見学、この施設は日露戦争を契機に大正時代に建設された無線塔（3基）・電信室であり、無線塔は鉄筋コンクリート製であり高さ136m、基底は約12mの煙突状の構造であり、1基が現在の約50億円、総工費250億



円が費やされ、日本の技術発展を象徴する近代化文化遺産として重要文化財に指定されました。

最後に「浦頭引揚記念資料館」を見学し千羽鶴を奉納しました。終戦後、引揚者約629万人の内、浦頭港には約140万人（遺骨・遺体を含む）が上陸し、佐世保引揚援護局（現在のハウステンボス）まで歩き、手続きの後、故郷に向かわれました。佐世保市は昭和61年、当時の悲慘な引揚げの体験を後世に伝え、恒久平和を願う歴史的遺産として浦頭引揚記念公園・資料館を建設、引揚者を含む全国から寄付が寄せられました。



8日は長崎市へ、永井隆博士「この子を残して」本の一部をバスガイドが朗読しながら「平和公園」に入り、「平和の鐘」と「原爆落下中心地碑」に折鶴を捧げました。その後、「原爆資料館」で改めて原子爆弾の恐ろしさや悲慘さを胸に刻み、平和を守る尊さを学びました。

県生協連第31回 「生協と県議会議員との懇談会」

県生協連主催の第31回「生協と県議会議員との懇談会」を県知事選の関係で2023年9月25日(月)に大分市都町「アートホテル大分」において開催し、県議会より14名の議員、生協側は県連理事・監事と会員生協役員で18名、合計32名が出席しました。

懇談会は、河原専務理事の総合司会で始まり、生協を代表して青木博範会長理事より「県議会議員の皆様へのこれまでの生協活動に対するご理解とご協力に対する御礼を述べ、今後ともご支援をお願いしたい」旨のあいさつがあり、県議会を代表して元吉俊博議長より「県民生活のため奮闘されている各生協の皆様へ県議会を代表して敬意と感謝申し上げるとともに、我家も生協の組合員としてお世話になっており、今後ともご活躍を祈念します」とあいさつの後、出席者全員の自己紹介がありました。



【出席者】(敬称略)

県議会	自由民主党	2	元吉俊博議長、今吉次郎
	県民クラブ	9	玉田輝義、守永信幸、原田孝司、木田 昇、成迫健児 高橋 肇、御手洗朋宏、福崎智幸、若山雅敏
	日本共産党	2	堤 栄三、猿渡久子
	日本維新の会	1	三浦由紀
生協	生協県連役員	13	青木博範、河原伸明、後藤哲也、日隈健一、岩井清一 瀬尾彰一、政丸佐智夫、首藤俊一、塩月裕市 吉田 禎、兒玉達典、江藤隆康、萩原 潤
	コープおおいた	2	松本晴美理事、石本理砂理事
	グリーンコープ	1	薬師寺ひろみ理事長
	大分県医療	1	工藤智子まちづくり推進部長
	県生協連職員	1	関谷綾女

まず、河原専務理事より「おおいたの生協」を活用し、大分県生協連合会の活動内容を説明、続いて各会員生協より、生協コープおおいたの松本理事、グリーンコープ生協の薬師寺理事長、大分県医療生協の工藤まちづくり推進部長、勤労者医療生協の塩月専務理事が活動報告を行いました。

質疑では、堤県議より「びん牛乳作成に関する会社設立に関する質問」、玉田県議より「配送事業の2024年問題に関する質問」等が出されました。

最後に、今後ともこの懇談会は継続していくことを確認し、盛会のうちに終了しました。

その後、懇親会を開催し、懇談会では聞けなかったこと、話しつくせなかったこと等について各県議会議員と懇親を深めました。

最後に後藤理事より「日田式一本締め」で終了しました。

県生協連2023年度平和のつどい・ ピースアクション in ナガサキ感想文

「ピースアクション in ナガサキに参加して」

大分県学校生協 生野 史彰

今回初めて「ピースアクション in ナガサキ」に参加させていただきました。実際に現地に行って学ぶことの大切さを感じることができた2日間でした。

1日目に「無窮洞」「針尾送信所」「浦頭引揚記念平和公園・資料館」を見学しました。戦争によって大人から子どもまで多くの人が関り、犠牲となったことを改めて学ぶことができました。ここまでして戦争をしないとイケなかったのかを考えさせられました。

2日目に「平和公園・原爆資料館」を見学しました。見学した日には、多くの人が訪れていて、平和の大切さを共に学ぶ人がいました。資料館には原爆のことと、被害のことなど詳しく展示されていて、ガイドさんの詳しい話を聞きながらより深く学ぶことができました。

これだけではなく調べていけば、いろいろなところで戦争にまつわるものが出てくると思いました。今後はアンテナを高くして、多くのことを学び、実践に生かしていけたらと思いました。貴重な体験をさせていただき感謝しています。ありがとうございました。

「ピースアクション in 長崎を終えて」

大分県学校生協 牧 一統

今回は、思い立って娘と共に参加しました。小五の娘は、来年、長崎に修学旅行に行く予定なので、その予習も兼ねて参加しました。

1日目は、かつて日本有数の軍事拠点だった佐世保での学習となりました。いくつかの戦跡を回っていく中で、娘は写真を撮影しながら現地のガイドのお話を真剣に聞いて学習をしていました。

また、バスガイドさんがしっかりと学習されていて、お話や歌を交えながらバスの中でもしっかりと平和学習ができました。娘は「バスガイドさんてすごいね」と目を輝かせて感心していました。

宿泊先も素敵なお店で、関係者の皆さんから家族連れの参加者への配慮も頂きました。

2日目は、長崎の平和記念公園や平和資料館を回りました。あいにくの台風のため、9日の式典会場が解体されている途中でしたが、ガイドさん達のおかげでしっかりと学習を深めることができました。旅が終わった後、娘は「とても勉強になったし、楽しかった」と感想を述べていました。

現在では、コンピューターやスマホで色々と情報を得られるし、動画などを見ることもできます。しかし、思いを持った方に、説明や案内をしてもらうことが、このように心に響く学習になるのだと改めて実感した旅でした。学んだことを今後の教育活動にも活かしていきます。皆さんも機会があればぜひ参加していただきたいです。

大分県学校生協 橋本 直秀

今回初めて参加させていただきました。台風の影響が心配でしたが、良い天気の中見学することができました。修学旅行の引率で長崎市内はよく行きましたが、佐世保市内の戦争遺跡を見学するのは初めてでした。無窮洞は臼杵市の屋敷余り特殊地下壕とはまた違った造りでした。小中学生が手彫りで終戦の日まで掘らされたことや、大変な状況下でも御真影部屋はきちんと作られているのを見て、当時は何を最も大事にされてきたのか改めて考えさせられました。先が見えない程高い、針尾送信所の無線塔を中から見上げて同じ思いが込み上げてきました。送信所のガイドさんの「本当に平和が一番だから」という言葉が忘れられません。2日目の原爆資料館では、平和祈念式典前日ということもあってか、多くの見学者で溢れていました。何度来ても原爆の悲惨さや78年経っても被爆者の苦しみが消えていないことを痛感し、決して同じことを繰り返してはイケないと再確認することができました。とても有意義な2日間となりました。本当にありがとうございました。

「戦争遺跡めぐりバスツアーに参加して」

大分県学校生協 永松 秀基

台風の接近が心配された中、家族4人で今回のバスツアーに参加しました。

まず向かった「無窮洞」は、旧宮村国民学校の防空壕として当時の先生と生徒たちによって掘られた物で中はひんやりしており、その広さから人の手で掘られたとは思えないものでした。終戦の日まで掘られ続けたことときれいに原形をとどめていることに驚きました。次に向かった「針尾送信所」は大正時代に建てられた無線塔ですが、鉄筋コンクリートは今なお強固なもので、3基とも今後百年は大丈夫だと言っていました。太平洋戦争の開戦が送信されたと思うと複雑な気持ちとなりました。そして、最後に向かったのは、終戦で引き揚げた人たちがたどり着いた「浦頭引揚記念資料館」です。当時の人たちが命からがら日本に帰って来たこと、迎える側も不眠不休で活動したことを初めて知りました。

今回のバスツアーで、世の中には知らない戦跡がたくさんあり、現地ガイドさんの戦争についての想いを知ることができ、私たちはさらにそれを次の世代に伝えていくことの大切さを感じることができました。貴重な機会をつくって頂いた大分県生協連の方々と、大分交通の方々には大変感謝しています。ありがとうございました。

「ピースアクション in ナガサキ」

阿部 雅子

8月7日～8日、台風6号の接近の中、戦争遺跡めぐりに参加させていただきました。

まず、第二次世界大戦中に学校の防空壕として終戦の8月15日まで中学2年生の男子が主となり凝灰岩にツルハシなどで掘り続けた『無窮洞』の見学でした。

この中に全校生徒600名が空襲の時に避難したので酸欠状態になり農家から農具の「とうみ」を借りて空気を送ったそうです。教壇、書類室、台所、食料室なども設けられていました。

次は西海橋の近くにそそり立つ『針尾送信所』です。鉄筋コンクリート製の高さ136mの煙突のような無線塔が300mの間隔を置いて正三角形に3本配置されています。太平洋戦争の開戦を告げた施設として有名ですが資料が無く不明だそうです。1918年～1922年にかけて建てられた施設はその土木技術も高く震度6でも耐えられ後100年はもつとのことでした。

3ヶ所目は、1945年8月15日の太平洋戦争の終結に伴い海外から日本人が引き揚げた『浦頭引揚記念資料館』。引揚者の多くが栄養失調や皮膚病、敗戦の失意など…私の亡父も引揚者で栄養失調でやっとの思いで故郷に帰ってきたと聞いたことがあり、あー父もこの地に上陸したのかもしれないと思うと胸が締め付けられる思いでした…。

最後は、平和公園、原爆資料館。1945年8月9日11時2分、長崎の上空で1発の原子爆弾が炸裂し、一瞬にして長崎が破壊されたその惨状の展示品はとても直視できるものばかりではありませんでした。

原爆資料館の中で『核弾頭保有数』のパネルが印象的でした。ロシア約5890、アメリカ約5244、中国約410、フランス約290、イギリス約225…

8月9日にはテレビでも報道されていましたが、テレビと実際に資料館で見て感じるものはやはり違うのでぜひ長崎の原爆資料館に行って、たくさんの方が戦争は要らない！不戦の思いを強くして欲しいと思いました。今日の平和に感謝してこれからも核兵器のない世界、平和を願い「不戦」を祈り続けます！

「2023年度ピースアクション」

大分東センター 座木 あゆ美

8月7日(月)台風の影響が不安な中、長崎に向けてのバスが出発しました。早朝こそ雨が降りましたが、第一の目的地に着くまでには青空が広がっていました。

無窮洞は戦時中に小学校の真裏にある凝灰角礫岩（ぎょうかいかくれきがん）という柔らかくて頑丈な岩石を子ども達が主に掘って作った防空壕です。中は装飾に凝っていて用務員さんが整えられたそうです。戦時中でも子どもたちに喜んでもらいたいという思いが伝わってきました。

この村の方たちはとても貴重であった白米のおにぎりを戦後引き揚げされてきた方々に作って持っていったそうです。そのような奉仕の心は鎌倉時代から続く藩主の教えがあつてのことなのだと言われた方が教えてくださいました。統治するお殿様がいなくなってもそうした思いが残っているのは世界平和にもつながることだと感じました。

バスに乗り込み、太平洋戦争の口火をきった暗号を送信したと言われる針尾送信所に向かいました。

現在でも驚くほど大きくて高い塔が3本、正三角形に並んだ当時とほぼ変わらない姿を見ることができました。質のいい材料と高い技術で作られていて後100年は持つと聞き、当時の日本は軍事国家だったのだという一端を目の当たりにしました。

浦頭引揚記念公園では約140万人の方が日本での第一歩を踏まれたそうです。

当時、異国の地で13歳の男の子が天涯孤独で終戦を迎えて15歳になり日本に戻ってきたと聞き、そのご苦労を思うと胸が詰まる思いです。

2日目は平和公園と原爆資料館にて原爆の爪痕を78年経過した今でも痛烈に感じました。当時の地面の位置や資料館での遺物などから原爆がいかに恐ろしいものかを再度勉強させていただきました。

この2日間で平和がいかに尊いか、戦争を起こしてはならないという思いが更に湧き上がりました。このような機会を与えてくださった皆様ありがとうございました。

「ピースアクション in ナガサキに参加して」

県医療生協 姫野 ふじみ

今回初めて参加させていただきました。どこへ行くのか、どんな所を見学するのか、あまりわからずに参加しました。

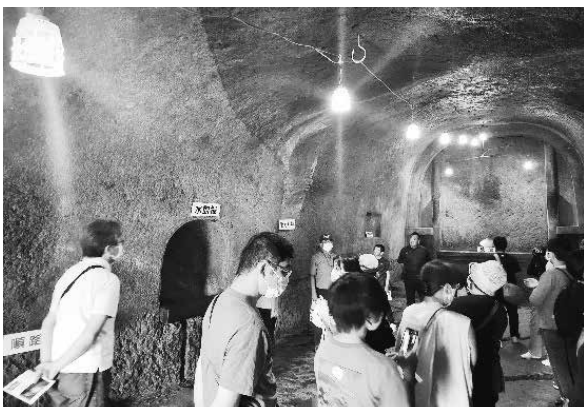
まず無窮洞へ行きました。案内人の方がお話し下さりよくわかりました。当時の小学生と中学生が無窮洞を作ったとのお話に驚きました。話を聞くほどに工夫し、苦労して作った事がよくわかりました。

次に針尾送信所へ行きました。今から101年前に136mの高さの無線塔を作ったとの事で、大変な労力だったろうと思いました。引揚記念資料館のDVDを見て、引揚げの時の様子がよくわかりました。

2日目の平和公園・原爆資料館の見学は、被爆者の方の話を直接聞く事が出来て考え深い場面がたくさんありました。長崎に修学旅行に行き話を聞いた事がありますが、大人になって話を聞くとまたちがう角度から聞く事ができました。

今回参加する事が出来てとてもよかったと思いました。お世話になりました。ありがとうございました。

「原子爆弾投下から78年」



大分県勤労者医療生協 梅本 剛

原爆によりこの1年に亡くなった人や死亡が確認された人は広島市で5320人。長崎市で3314人となり、原爆死没者名簿には53万4834人の名前が記されました。

8月7日、大分県生協連の主催するピースアクションに参加し、長崎の戦争跡地を巡ってきました。

小学生たちによって掘られた防空壕「無窮洞」や、戦後140万人の引揚者が祖国への第一歩を踏んだ地域「浦頭引揚記念平和公園」を巡り、戦争があった事実を再確認してきました。

平和公園・原爆資料館では、当時小学生だったガイドさんから、展示されている資料の説明と合わせて被爆体験を聞くことができました。資料や記録を読むだけでなく、実体験を聞くことで、記憶に残るといよりも心象に残る体験となりました。終戦前に生まれた方の最年少が77歳となり、戦時を記憶している年齢となると80歳の半ば過ぎです。戦時を体験した人の生の話を聞ける機会も限られてきている中、戦争の悲しさを正しく伝えていくことの大切さも考える機会となりました。

また、平和公園を歩いていると外国の方の姿も多く見かけました。偏った見方をせず、起きた事実のみを

伝える日本人だからこそ、78年前の戦争で何が起きたのか、世界中の人に伝えることが出来ているのかも知れません。これからも日本が世界で唯一の戦争被爆国で在り続け、平和の尊さを伝えていくことが大切だと思います。



「そこに生きていた人々の息遣いを感じた。」

高校生協 濱田 眞一郎

今回初めて訪れる場所があったこともあり、貴重な体験ができた。

教室として使える程の防空壕である「無窮洞」。そのアーチを描く天井、燭台用の棚、柱、教壇等の造形物、壁に残るツルハシやノミの跡。それらは全て教職員と子どもたちの手によるという。「針尾送信所」の3本の塔の表面には建設時の型枠の跡が高さ136mの尖端に向けてびっしりと残されていた。「浦頭引揚記念資料館」の展示品からは引揚者と、受入を担当した引揚援護局の苦難を知ることができた。「原爆資料館」では、原爆投下直前までそこに生きていた人々の姿、またその後の日々を生きてきた人々の思いが伝わってきた。

それぞれ現地ガイドの方から詳しく解説していただいたこともあり、当時を生きた人々の息遣い、更にはその思いを今日まで繋いできた人々の強い意志を感じる事ができた。

「核による威圧」が云々される中、私たちに残された時間は少ない。私たちにも未来に繋ぐ役目が託されている。

「戦争遺跡めぐりに参加して」

大分県医療生活協同組合 清本 安澄

今回、戦跡めぐりに参加したのは、日本が経験した戦争をこどもと一緒に学べたらと思い参加しました。

白杵の地下壕では、見学する前の齋藤さんの話の中で白杵には戦争基地はなかったけれど、弾薬庫や燃料製造施設など、戦争を支える施設が多かったように感じると話を聞いて、今で言ったらあの地域なのかな…。などと想像して聞いていました。地下壕は入口には必ず爆風を防ぐ工夫が必ずされていて爆弾の恐怖や音や振動の恐怖の生活があったことを知りました。

やわらぎでは、中学生位の年齢から兵隊となり、拳銃や爆弾を扱って戦っていたことが当たり前だったという話が印象的で多くの若者が命を落としていったことが悲しかったです。

見学を通して、いきなり戦争になったわけではなく、徐々に教育や生活が変化していき、爆弾の恐怖が身近なものになっていったのだろうとあらためて現在の情勢と比べて考えさせられる見学となりました。



丹賀砲台跡地からの景色

「戦争遺跡めぐりに参加して」

グリーンコープおおいた 別府地区センター 阿部 雅子

7月29日（土曜）朝8時に大分駅をバスが出発し、まず白杵市にある1943年頃に造られた防空壕『屋敷あまり特殊地下壕』に到着しました。管理をされている方の説明の後、懐中電灯を持ち、冷んやりして真っ暗な防空壕に入って行きました。炊事場やトイレ、7つの部屋、爆風を避けるための工夫を見学しながら、当時の方々がこの真っ暗い中で地区の方々と空襲の怖さを耐え忍んでいた事を体験しました。

次は1997年に佐伯海軍航空隊兵舎の跡地に建てられた『平和祈念館やわらぎ』を見学しました。昭和10年生まれの私の母が佐伯市出身で、子どもの頃にたびたび激しい空襲を受けてとても怖かったという話を聞いていたので、それが海軍航空隊があったからだと理解しました。館内で戦争で親族の方を亡くされた方が涙を流しながら話しているVTRが流れていて、80年近く経った今でも当時の悲しみや苦しみは癒えないのだと感じました。

3ヶ所目は豊後水道への敵の侵入を防ぐために作った『丹賀砲台』でした。実弾訓練中に砲台内で爆発し16名の尊い命が失われたとのこと。これも戦争における悲しい出来事です。

戦争とは何だろう??

たくさん大切な命や物を破壊する戦争は必要ではないとしみじみ感じ、帰りの車窓から偶然見えたダブルレインボーに今日の平和に感謝した1日となりました。

これからもずっとずっと平和が続きますようにと心から祈ります♡

・大刀洗コース（福岡県朝倉郡筑前町）

「大刀洗平和記念館を訪れて②」

大分県学校生協 沢谷 祐治

去年は、一人でしたが、今年は親子で参加できると聞き、2年連続で大刀洗コースに参加させていただきました。常々こどもを「大刀洗平和記念館」に連れていきたいと考えていたので希望が叶ってとても感謝しています。14歳で飛行訓練に従事し、戦地に向かっていった少年飛行兵の話や、多数の小学生が犠牲になった大刀洗の空襲の様子を知り、中2の娘が平和の大切さを学ぶ良い機会となりました。去年のこのつどいの頃に、ウクライナ情勢の心配をしていましたが、未だに終結していないのが、信じられないし、残念でなりません。子どもたちの世代に平和の大切さ、戦争の愚かさをしっかりと伝え、2度と戦争は起こさないという思いを強くするために、これからもこのような機会に積極的に参加しようと思います。ピアノの生演奏を聴きながらの親子でのランチタイムはとても幸せなひとときでした。平和のありがたさを実感できました。ありがとうございました。

「『親子で考える平和のつどい』に参加して」

中2 沢谷 萌々子

7月29日に「親子で考える平和のつどい」に参加させていただきました。過去に何度か参加しようとしたのですが、中止になったり親のみの参加になったりしていたので、参加できてよかったです。大刀洗平和記念館の見学では、特攻隊の方々が書いた遺書を見たことが一番心に残っています。私より少し年上の方が特攻隊としてたくさん亡くなったことを知ってとても驚きました。広島や長崎だけでなく、九州も戦争の被害を多く受けていたことは知りませんでした。

今回の見学で戦争の悲惨さ、恐ろしさについて考えることができました。また、若くして亡くなった人達のためにも、これからはいままでよりもっと平和を大切にしながら生きていこうと思いました。年々戦争を体験した方が減ってきているけど、戦争の無意味さを忘れないためにたくさんの人にこの記念館を訪れてほしいなと思います。

「二度目の戦争遺跡めぐりに参加して」

大分県学校生協 津久見市 高木 修

学校生協の主催する平和の集い、大刀洗の戦争遺跡めぐりに参加は去年に続き2回目でした。昨今のロシアによるウクライナ侵攻を思う時、このツアーは戦争と平和を考える絶好の機会ととらえています。話しは前後しますが、私は津久見市保戸島生まれ、子どもの頃、寝る前に聞くのはたいてい、野津の吉四六さんが終戦の21日前に130人近い児童の命が奪われた保戸島空襲の話ばかりでした。それで勤務校でもいつしか反戦・平和がライフワークの1つになりました。今回のツアーのメインは大刀洗平和記念館、ビデオを観たり朗読を聴いたり、遺品の展示等館内も細やかに整備されていて感激しました。

実は、保戸島空襲が7月25日、この戦争遺跡めぐりは例年7月末。毎年、7月下旬を戦争と平和を考える場とし、これからも参加を続けたいです。特攻で死にゆく君は23辞世の駅に涙を拭かす 合掌 なお、学校生協の方々には山ほどのお礼を申し上げます。

「不戦」

グリーンコープ生活協同組合おおいた 恵良 美紀

小学生2年生と6年生の子どもと一緒に参加させてもらいました。大刀洗平和記念館では、シアター映像「大刀洗1945.3.27」の上映と「ほたる」の朗読、館内の展示物の見学をしました。

いままで、戦前に東洋一と言われた「大刀洗飛行場」があった事を知りませんでした。飛行場の発展とともに大刀洗の町も活気づき、多くの人が暮らしていました。そこで空襲があり多くの人々の命が失われた事や、特攻で戦死した若者たちのお話しでは涙が止まらなくなりました。

あらためて、戦争はあってはならないと思いました。親子で平和について考える機会になりました。

2年 恵良 涼太

展示している戦闘機がかっこよかった。でも特攻隊のお話を聞いて悲しくなった。ずっと平和がいいと思いました。

6年 恵良 光士郎

映像を見て大刀洗空襲の事と、資料館の展示物を見て戦争中に使われていた物を知れました。自らが犠牲になって攻撃をする「特別攻撃」はとても怖くて悲しく思いました。これからは戦争がない平和な世界にしたいと思います。

A子

暑い中でしたが、皆さんと楽しいバスの旅をして来ました。

大刀洗では、今から78年前に終戦を迎えた戦争の話を語り部さんから聞き、涙なくしては聞けませんでした。あまりの悲惨さに言葉が出ませんでした。今一人でも多くの小中学生や大人の人達にこの体験をしてもらい、平和のありがたさや、この平和を後のちまで守っていかなければ、いけないと言う事を、実感してもらいたいです。

命がいかに大切か、あらためて思いました。

「大刀洗コースに参加して」

コープおおいた 石本 理砂

太陽の光が眩しく降り注ぐ晴天の中、7月29日第30回親子で考える平和の集い大刀洗コースに参加させていただきました。

アメリカのB29の何分の1かほどの小さな飛行機に爆弾ごと攻撃をする特別攻撃隊と呼ばれる戦い方。大刀洗では広大な敷地で14歳から20代前半の青年たちが飛行訓練を積んでいたとのことでした。

記念館では目の澄んだ青年たちの写真と家族に宛てた手紙を見て、この日本で戦争が行われ、青年たちの多くの尊い命が失われたことに改めてショックを受けました。

ボランティアによる朗読や映画では、戦争の悲しみを改めて感じました。

世界に目を向けるとウクライナをはじめ、世界各地で現在も戦争や紛争が未だに続いています。多くの悲しみを生む戦争は私たちの力でストップさせなければいけないと思いました。

大分生協の方々におかれましては、準備とても大変だったことと存じます。ツアーに参加できたことを感謝いたします。ありがとうございました。

「第30回平和のつどい」

大分県高等学校生活協同組合 時松 点

7月29日に大刀洗コースに参加させていただき、大刀洗平和記念館と大刀洗地区の戦争遺跡跡を巡りました。平和記念館では、世界で唯一現存する零戦三二型、戦闘機模型、シアター映像や朗読、特攻出撃した若者が残された家族への手紙に胸がしめつけられました。

戦争遺跡めぐりでは、ガイドさんの説明が丁寧でわかりやすく、とても有意義な一日になりました。

今回の「平和のつどい・大刀洗コース」で、B29の空襲により破壊された街、失われた幼い子どもの命等々、忘れてはならない戦争の悲劇を二度としてはいけないという思いを再確認することができました。

初参加させていただきとても感謝しています。ありがとうございました。



「『親子で考える平和のつどい 2023.7.29(土)』に参加して。」

大分県勤労者医療生活協同組合 衛藤 布美子

戦争遺跡めぐり／大刀洗コースに参加しました。

大刀洗平和記念館で館長さんより、東洋一と言われた軍用飛行場であった事、そのためB29の攻撃を受け1000発もの爆弾を投下された事や、西日本一の飛行学校であり、1万人の学生が在籍するなか4000人が少年飛行兵であったこと、3年かかる訓練を1年で終わらせるほど厳しい訓練を受けていたこと、

そしてすぐに実戦部隊に入り、特攻となるお話などを聴きました。

生きては帰れない、死日を決められた「特攻」。前日に撮られた写真には笑顔の少年たちの姿があり、どのような気持ちであったのだろうか…と、胸が苦しくなりました。

今も尚各国では人々が血を流し、失われる必要のない命が奪われてしまう戦争が続いている事を改めて悲しく思う一日となりました。



「平和の大切さを語り継ぐ大刀洗平和記念館」

大分県職員消費生活協同組合 政丸佐智夫

2度目の大刀洗平和記念館を連れ合いとともに訪れることができました。今回も暑い夏の1日でした。鹿児島県知覧町（南九州市）には有名な知覧特攻平和会館があり、知覧町の方が大刀洗の分校であったとのこと。何もなかった大刀洗に1987年4月に個人の力で開館され、筑前町立大刀洗平和記念館としては2009年10月に新たに開館。

幻の試作機「震電」レプリカや世界で唯一現存する「零戦三二型」の実物など飛行場の概要と航空技術には目を見張るものがあります。当時の熱い思いは、いまは暗い悲しい思いにしかかなりえません。

少年兵の遺書など死を覚悟した者の思いに大きく心を揺さぶられました。当時16歳の父も1945年春まで三菱重工長崎造船所に動員されていました。多くを語らなかった父ですが平和の大切さは短歌としてよく詠っていたように思います。平和への思いが込められた絵本「ほたる」の朗読もあり、次代に平和を語り継ぐ大切さを実感した一日となりました。

また、前回は周辺を歩きましたが短い時間でも歩いて肌で感じることも大切だと改めて感じました。

令和6年度大分県予算並びに行政執行に関する要望書を提出

大分県生協連合会は毎年大分県に対して要望書を提出しており、2023年度は、10月19日(休)に大分県生活環境部長へ「令和6年度大分県予算編成並びに行政執行に関する要望書」を提出しました。

要望内容は、各会員生協の要望等をまとめながら作成しており、今回の要望事項は、①新型コロナウイルス感染症対策及び被害に対する支援、②消費者行政の充実・強化、③食の安全・安心、食品ロス削減の推進、④生活協同組合の育成・強化、⑤大規模災害等の被災者支援と復興・再生及び今後の災害対策、⑥諸物価・エネルギー価格高騰対策、生活困窮世帯・子育て支援、⑦診療報酬・介護報酬等の改定、健康保険証の廃止についての7つのテーマとなりました。

当日は、県生活環境部より高橋部長、島田審議監、木内課長、飛河補佐、手島主幹の5名、県生協連は、青木会長理事、河原専務理事、地域医療より日隈理事（グリーンコープ）、職域生協より瀬尾理事（県高校生協）、医療生協より兒玉理事（県医療生協専務）、関谷職員の6名が出席しました。

最初に県生協連の青木会長理事より「日頃より、生活環境部の皆さんには県民の消費者行政・福祉・暮らしを良くする活動にご尽力されていることに感謝し、生協運動にご支援とご協力をいただいていることに御礼申し上げます。新型コロナは5類に位置づけられましたが、コロナ以外にも諸物価やガソリン・電気等の経費が上昇し、厳しい状況が続いています。生協としてもできる限り県民生活の向上に向けて取り組みを進めてまいります。今回も新型コロナ感染対策、消費者行政から医療・福祉まで幅広い分野での要望ですが、ご検討をいただきたい。」とあいさつがあり、出席者全員の自己紹介の後、青木会長理事より高橋生活環境部長に要望書を手渡しました。要望書の内容については河原専務理事より7項目の概要について説明され、2024年1月15日までに文書で回答いただくよう要請しました。

その後、高橋部長より「大分県生協連合会におかれましては、消費者行政、食の安全・安心、環境や福祉、災害支援等に多大なご協力をいただいていることに感謝申し上げます。本日いただいた多岐にわたるご要望については関係部署とも協議しながら誠意をもって回答申し上げます。」と述べられました。

最後に、今後とも大分県と県生協連が協力していくことを確認し終了しました。



生活協同組合コープおおいた①

ふれあい体験農場 in 九重 田植え

5月6日(土)
参加者：10家族33名

今年で31回目の取り組みとなる「ふれあい体験農場 in 九重 田植え」を開催しました。コープおおいた産直生産者である九重町田野の時松さんに圃場の準備、田植えの指導、そして交流会での講話とご協力をいただきました。

雨模様の中の田植えでしたが時松さんからの苗の植え方を聞き、親子での苗植えの中「どれくらいの苗を取って植えたらいいの」「足がはまって動けない」などとまどっていましたが泥だらけの子どもさんもあるなか2列目3列目と段々と要領をつかみ苗植えが出来るようになっていき無事に田植えは終了しました。

田植え終了後は、九重町コミュニティセンターに会場を移し交流会を行いました。時松さんから九重町での農業事情に対してや田植えや稲刈りについての事、何故圃場に水生生物がいたかなど多岐にわたりお話しをいただき、農業の大変さ、お米一粒一粒が農家の皆さんの汗と苦勞の結晶であることを改めて感じました時間となりました。



親子体験農場 in 清川2023 開校式

5月13日(土)
参加者：10家族37名

「親子体験農場 in 清川」の第1回目の開校式を(株)夢ファームおおいたの農場（今回はビニールハウス）にて開催しました。この体験農場は参加する皆さんが中心になって種を蒔き、苗を植えて、農作物を育て収穫し、食べるという過程から食を支えている農業に感謝の気持ちと理解をもつていただくという目的のもと全5回で行われます。

今回の作業は(株)夢ファームおおいたの事務所前の3棟のビニールハウスに3グループに分かれ「野菜の苗の植え付け」「野菜種の植え付け」「落花生の植え付け」をお父さん・お母さん・お子さんが手や服が汚れるのを気にせずとても楽しそうに作業を行いました。

作業終了後時松社長より「何故3つのビニールハウスに分けて植え付けしたのか」「連作障害は何故おこるのか」「野菜が何科になるのか」等のお話しをしてくださり参加者の皆さんも関心を持って耳を傾けていました。



生活協同組合コープおおいた②

日田市へ災害ボランティアを派遣

コープおおいたでは従業員有志による災害支援先発隊(通称CODRA)を日田市に派遣しました。今回はNPO法人リエラ様にお声かけいただき、役員・従業員計19名が集まり、日田市小野地区・大鶴地区に泥出し・洗浄・災害ごみの撤去を行いました。

また、日田市複合文化施設AOSEにて炊き出しを行い(鶏めし、豚汁)AOSEに避難された住民の方や大鶴地区公民館へ避難された住民の方へ提供しました。

一日でも早く、住民の方の生活が元通りに戻ることをお祈り申し上げます。



「みんなのスペース ぽっかぽか in 鉄輪」の午後オープン

第2・第4土曜日
13:00～16:00

別府市鉄輪の御幸・風呂本公民館に誰でもふらっと立ち寄れる居場所、「みんなのスペース ぽっかぽか in 鉄輪」がオープンしました。忙しい日々を過ごすこどもたちにホッとできる場をつくり、世代を超えた交流により地域のつながりを深めることを目的に、コープおおいたと地域のボランティアが運営しています。

おひとりでも、お友達といっしょでも、年齢も国籍も関係なく、どなたでもお気軽に「ぽっかぽか in 鉄輪」をご利用できます。



TOPICS

日田市民生活協同組合

主な活動紹介



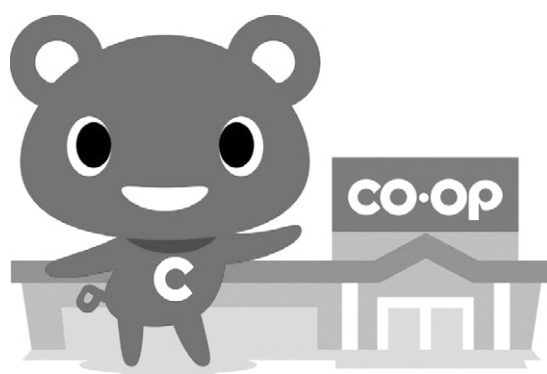
平和のつどい 平和川柳

コロナ禍により3年間自粛していた平和の集いでしたが今年はコープ大分さんと共催で平和川柳を募集し、たくさんの投稿をいただき8月にはそのすべてをパトリア日田ギャラリーに展示させていただきました。入賞作3点については、コープ新治店においても展示いたしました。

たすけあい共済

2003年7月より取り扱いを開始いたしました「たすけあい共済」の保有件数も今年度5,585件となり、当初目指していた組合員加入率30%をいよいよ超過いたしました。

コロナ禍にあって推進活動の制約はございましたが、目標数値の達成と共にこの数年は新型コロナによるご請求も増加し、“給付のための共済”組合員の困った時のお役立ちの意味を実感しております。



お買物無料送迎サービス

日々の買い物にご不便を感じている組合員さんに対して2020年8月に開始した生協店舗への無料送迎サービスですが、現在2拠点、約80名の登録者に対して、週5日・毎日5便の運行を行っています。少子高齢化などの影響もあり利用者は増加傾向にあります。

グリーンコープ生活協同組合おおいた

2023年度 みんなのふくし交流会 ～100円基金報告&わたしたちの夢ヲかたちに～



グリーンコープ生協おおいたでは、「住んでる街を住みたい街に」できるよう地域に根ざした福祉の取り組みをすすめてきました。その担い手にはグリーンコープのワーカーズや地域で活躍する福祉団体・個人があります。この取り組みを支えるのは、組合員の拠出する「福祉活動組合員基金（100円基金）」です。

毎年みんなのふくし交流会では100円基金の活用報告をし、身近な地域福祉の再発見をします。あわせて会場に一部販売ブースを設け、楽しくブースをまわりながら交流を深めます。

今年も、6/27(火) J:COM ホルトホール大分で開催し、144人が参加しました。16団体（個人）と参加者が一堂に会しての活動報告の後、カーボンニュートラルまつりのアピール、夢ヲかたちに！理事会、子どもの居場所、共同購入・店舗ワーカーズ・専門委員会の報告もあり、その後の交流も和やかで活気ある時間となりました。



発表のようす



美味しいコーヒー



新鮮な野菜



自然の木を使った雑貨



店舗ワーカーズも出店しました

～あなたの住む地域に～ おでかけ福祉学習会

グリーンコープ生協おおいたでは、1994年から今と将来を見据えグリーンコープ福祉政策をもとに地域福祉に取り組んできました。家事支援からスタートした福祉活動が在宅介護を支えるまでに広がり、2023年度は、地域福祉を担う社会福祉法人グリーンコープおおいたの事業所の協力を得て、“おでかけ福祉学習会”を開催しています。毎月県内の地域を回り、介護の知識を増やすことを目標に近隣の福祉事業・福祉用具・用品について知り、介護保険のしくみ、活用方法を学びます。なかでも人気なのが実際に装具を着けて体験する、高齢者疑似体験です。目は見えづらくするゴーグル・耳はヘッドフォンで覆い・肘・手首・膝・足首に重りをつけ、重いベストを着ると腰が曲がるようになります。総重量5～6kgの装具をつければ「高齢者は毎日こんな大変な思いをしているのか」「これは手助けが必要だ」「高齢者にはやさしくしなければ」と、実感から出てくる感想が多く出ました。

第一回は、大分市で7月に終了、第二回は、別府市で9月に終了しました。今後、第三回は中津市のグリーンコープ生協県北センターで10/18(水)に、第4回は日田市の日田アオーゼで11/9(木)に、第5回は臼杵市の市浜コミュニティセンターで12/7(木)に開催を予定しています。



歩くのも大変！疑似体験のようす



大分県学校生活協同組合

2023年度 第30回県生協連平和のつどい

7月29日(土)、大分県生活協同組合連合会主催の「県生協連平和のつどい」を開催しました。「大刀洗地区の戦争遺跡めぐり」に学校生協の組合員とその家族3名が参加しました。今年度も大刀洗平和祈念館（福岡県筑前町）を訪れ、解説・朗読・ビデオ鑑賞で戦争の悲劇さを学びました。また、「臼杵・佐伯地区の戦争遺跡めぐり」に学校生協事務局より1名が参加し、屋敷あまり特殊地下壕（臼杵市）・佐伯市平和祈念館やわらぎ・丹賀砲台（佐伯市）では解説員より説明をして頂きました。

このつどいに参加して、二度と戦争を繰り返してはいけないこと、平和の大切さについて学習が出来ました。



大刀洗平和記念館



佐伯市平和祈念館やわらぎ

2023年度 ピースアクション in ナガサキ

8月7日(月)～8日(火)の日程で日本生活協同組合連合会主催の「ピースアクション in ナガサキ」に学校生協から組合員とその家族10名と事務局1名が参加しました。1日目は、無窮洞・針尾送信所・浦頭引揚記念公園を訪れました。2日目は、平和公園や原爆落下中心地を見学しました。原爆投下から78年の「原爆の日」の前日ということもあり、多くの方々が「平和への祈り」を捧げにいられていました。実際に原爆が落ちた場所で直接、被爆した方からの体験を聞くことができ、戦争の悲惨さを肌で感じました。

二度と戦争は起こしてはいけない、一人一人が平和を築けるよう考えなければならぬと改めて感じました。



無窮洞



平和公園

大分大学生生活協同組合

2023年新入生のお迎え準備

9月26日(火)に総合選抜入試Iが実施され、いよいよ2024年新入生をお迎えする準備がスタートします。大分大学生協では、しっかりと新入生をお迎えできるように住まい、共済、パソコン、食事など様々な研修を行っています。来年入学する新入生が笑顔で学生生活を送れるよう、しっかりと準備を進めていきます。



↑学生による“リアルな学生生活”紹介

大分大学オープンキャンパスにて

7月29日(土)、30日(日)に開催されたオープンキャンパスにて、大学生協の説明会を実施いたしました。大学生協の紹介や、アパート・住まいについての案内に加え、現役の大分大学生も登壇し、リアルな大学生活についての紹介を行っています。

オープンキャンパスでの説明会は初の試みでしたが、多くの方に参加いただくことができました。



↑専務理事による生協の紹介

学生委員会の活動

今年より学生委員会も精力的に活動を再開しています。学生と一緒に生協の活動を盛り上げていきます。



↑ポッキー日企画



↑ミールカード入学式



↑アルコールパッチテスト企画

大分県職員消費生活協同組合

農業大学の野菜販売、好評です

県職員生協事務局・売店は新自治労会館の完成により大分市大手町3丁目2-9にもどり営業再開しました。

農業大学の新鮮野菜等の販売や水曜日のクリーニングサービスデー、クオカード、各種飲料・お菓子など取りそろえてお待ちしております。

7月には野菜販売(種なしピーマン大好評)、パン・弁当等の限定販売、8月には贈答用に「耶馬美人」兼八セット」などプレミアム焼酎を取り扱いました。農業大学の各種お茶も取り扱っています。

事業者向けには県内外に向けて県証紙、フロン排出抑制法に基づく行程管理票(県内では業界団体1カ所と県職員生協のみ)取り扱っています。是非お立ち寄りください。

営業時間、

月・火・木曜日 8:30~17:15

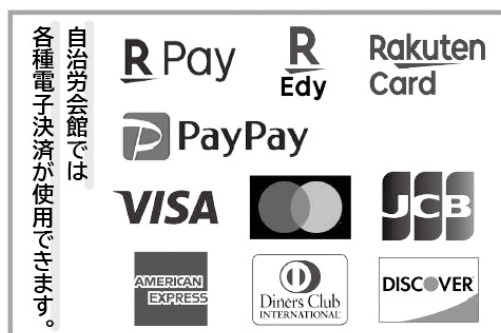
水曜日 8:00~18:00

金曜日 8:30~18:00



「各種電子決済」ご利用いただけます(自治労会館売店)

自治労会館売店では組合員のご要望に応え、各種電子決済が利用できるようになりました。また、イベントやお弁当情報などの伝達のためInstagramはじめました。10月からはホームページもリニューアルの予定です。



「大分市プレミアム付き商品券」ご利用できます(10月1日~)

13,000円分の商品券を10,000円で購入できるプレミアム付き商品券事業に加盟店登録しました。県職員生協では紙商品券のみで12月28日までの営業時間にご利用いただけます。

大分県労働者総合生活協同組合

住宅事業について

【分譲部門】

下記の分譲地にて建築条件付宅地を販売中です。
詳細はフリーダイヤルまでお問い合わせください。

- ◇大分市荏隈（分譲地2区画）
- ◇中津市如水（分譲地9区画）



【リフォーム部門】

戸建住宅の外壁や屋根の葺き替え、キッチンやお風呂など、様々なリフォームを扱っています。
組合員様のご希望に合ったプランのご提案をさせていただきます。

【問合せ先】 大分県総合生協住宅事業部 0120-557-887

旅行センターについて

旅行センターは、組合員の皆様へ安全、安心な旅行サービスの提供に努めております。ご旅行や組合行事などをご検討の際は、お気軽にご相談下さい。

【新規団体旅行紹介キャンペーン】

対象団体：旅行センターに新規でお申し込みの団体旅行

※過去にお取り扱いのない団体旅行となります。

対象期間：2023年10月1日～2024年3月31日までに出発の団体

対象条件：15名様以上で1泊以上の国内・海外団体旅行

（貸切バス・航空機・JRなど交通機関のついた団体旅行）

プレゼント：15名様以上のご紹介の場合

紹介者様、旅行幹事様それぞれに5,000円のギフト券をプレゼント

※15名様ごとにそれぞれ5,000円のギフト券を追加で進呈します。

（例）35名様の場合 紹介者様、旅行幹事様へ各10,000円のギフト券



総合生協中央パーキングについて

【時間貸し料金】

- ・昼間（8時～18時）40分100円 昼間最大800円
- ・夜間（18時～8時）60分100円 夜間最大500円

【お得なプリペイドカード】

- ・10,000円券を8,000円で販売
- ・5,000円券を4,300円で販売

*おさるのマーク、「大分市中心市街地共通駐車券」の加盟駐車場です。
ソレイユや大分市中心部商店街にご用の際は是非ご利用下さい。



大分県勤労者医療生活協同組合

特定健診を受けましょう

生活習慣病は、一人一人が、バランスの取れた食生活、適度な運動習慣を身に付けることにより予防可能です。ご自身の健康状態を毎年確認し、健康づくりにつなげていくことが重要です。1年に一度、特定健診を受診し、生活習慣の改善が必要な方は、特定保健指導を受けましょう。

診 察 等	問診・診察身長・体重・BMI・腹囲・血圧
血中脂質検査	中性脂肪 HDL コレステロール LDL コレステロール
肝機能検査	AST (GOT) ALT (GPT) γ-GT (γ-GTP)
血糖検査	空腹時血糖 ヘモグロビン
腎機能	クレアチニン (eGFR)
尿検査	尿糖 尿蛋白

インフルエンザ予防接種のご案内

大人 (13歳～64歳)	組合員	2,750円
	非組合員	3,850円
大人 (65歳以上)	自治体により金額が異なります。詳しくはお問い合わせください。	

※65歳以上助成は、R5年1月31日まで

小人 (1歳～13歳未満) ※組合員のお子様	1回目	2,750円
	2回目	1,650円
小人 (非組合員)	1・2回目	3,850円

※お得な組合員料金をご用意しております。

※「おいた子育てほっとクーポン」利用可能です。

※佐伯診療所では小学生未満の接種は実施しておりません。

■予約 (10月2日より接種開始)

- ・13歳未満の方は、1回目接種から2～4週間の間隔をおいて2回目接種が必要です。
- ・オンラインでご予約いただけます。詳細はホームページをご確認ください。※大分協和病院のみ

<http://www.oitakyowa-hp.org>

■ご予約・お問い合わせ先

大分協和病院 ☎097-568-2333

(受付時間 平日10:00～12:30 土 14:00～16:00)

佐伯診療所 ☎0972-23-2212



大分県医療生活協同組合

“きょういく”と“きょうよう”のある生活で元気に長生きを目指そう

コロナ禍を通じ、感染予防のための外出機会の減少が高齢者の身体機能や認知機能を低下させることを経験しました。他者とのつながりの絶やさない日常生活を送ることが元気で長生きの秘訣と再認識し、班会、趣味の教室、スクエアステップ教室などを再開・継続しています。



スクエアステップ教室



健康麻雀

夏休み子ども無料塾 ひまわりの家教室を開催

7月31日～8月4日

コロナ禍による感染予防のために2019年12月を最後に休止していた『夏・冬休み子ども無料塾』を約3年ぶりに再開しました。会場は東大分小学校すぐそばにある医療生協ひまわりの家。小学校の協力を頂き、全校児童に案内したところ、9家庭より14名の子供たちが参加してくれました。ボランティア講師は6名（元小学校教員、元高校教員、元大学教員、教員免許保持者、教員）で宿題をがんばった子供たちのために、毎日調理ボランティア（11名が参加）がおにぎりやみそ汁の昼食を用意。手作りの漬物も大人気でした。参加家庭から寄せられたアンケートでは『家より集中して取り組めた』、『わからないところをやさしくおしえてくれた』等のうれしい声を頂きました。大分県医療生協では長期休みだけでなく、放課後にも利用できるよう、無料塾の定例化を目指しています。



大分県福祉生活協同組合

健康教室

健康教室では、医療、介護、栄養等様々な分野で健康に役立つ豆知識を皆様にお伝えしています。初夏から初秋にかけては、熱中症や食中毒に気をつけたい時期でもあり、昨年より「熱中症予防と食中毒予防」に重点を置いて取り組んでいます。



“食品の購入と家庭での保存の時の注意点”や“調理で気を付けること”、“残った食品の保存のコツ”等々をクイズ形式や寸劇を交えながら、楽しく学べるよう取り組んでいます。

ホームページリニューアル

創立20周年を迎え、当組合のホームページを新しくリニューアル致しました。

大分県福祉生活協同組合

ふくし生活のホームページへようこそ

[トップページ](#) [ニュース](#) [一般情報](#) [提供サービス・連絡先](#)



当組合の情報誌『スマイル』の最新作から過去作までをいつでも閲覧できるようになりました。またお知らせ・トピックス欄では、最新の情報を随時更新していきます。

2023年度第1回理事会議事録

1. 日 時 2023年7月14日(金) 13時～14時20分
2. 会 場 大分市中央町 ソレイユ7階会議室
3. 出席者 理事総数13名中12名出席、監事総数2名中1名出席

議 題

4. 議 事

<審議事項>

- 1, 県生協連第31回県議会議員との懇談会について
- 2, 県生協連2023年度県行政への要望書の作成と提出について
- 3, 県生協連2023年度役員視察研修について
- 4, 県生協連2023年度会員生協監事研修会について
- 5, 県生協連2023年度大分県生協大会(役職員研修会)について

2023年度第2回理事会議事録

1. 日 時 2023年9月25日(月) 16時～17時
2. 会 場 大分市都町 アートホテル大分2階会議室
3. 出席者 理事総数13名中11名出席、監事総数2名中2名出席

議 題

4. 議 事

<審議事項>

- 1, 令和6年度県予算編成並びに行政執行に関する要望書の作成と提出について
- 2, 県生協連第28回大分県生協大会(役職員研修会)について

